

## II 麦

### 1 麦種別施肥量

(kg/10a)

| 麦種      | N  |      |    |    |    | P <sub>2</sub> O <sub>5</sub> | K <sub>2</sub> O |      |    |   |
|---------|----|------|----|----|----|-------------------------------|------------------|------|----|---|
|         | 基肥 | 分けつ肥 | 穂肥 | 実肥 | 計  | 基肥                            | 基肥               | 分けつ肥 | 穂肥 | 計 |
| 小麦（製麺用） | 5  | 2    | 3  | 0  | 10 | 8                             | 5                | 1    | 2  | 8 |
| 小麦（醤油用） | 5  | 2    | 5  | 6  | 18 | 8                             | 5                | 1    | 2  | 8 |
| 大粒大麦    | 5  | 2    | 2  | 0  | 9  | 8                             | 5                | 1    | 2  | 8 |
| ビール麦    | 5  | 3    | 0  | 0  | 8  | 8                             | 5                | 3    | 0  | 8 |
| 裸麦      | 5  | 2    | 3  | 0  | 10 | 8                             | 5                | 1    | 2  | 8 |

注1) 上記は一般土壌に対する施肥量である。黒ボク土では P<sub>2</sub>O<sub>5</sub> を計 12kg/10a に増施する。

注2) 上記は稲作後を想定している。大豆作後は醤油用小麦を除き基肥窒素を 2kg/10a 減量する。

### 2 施肥上の留意点

- ①水田裏作栽培で、目標収量は小麦 400kg/10a、大・裸麦 420kg/10a とする。
- ②この施肥量は、ドリル播を基準としたもので、全面全層播の場合は基肥を 30 ~ 50%増やし、分けつ肥は施用しない。
- ③分けつ肥は 3 ~ 4 葉期、穂肥は幼穂長 2 ~ 5mm（幼稈長 20mm 程度目安）に施用する。
- ④実肥は、醤油用小麦などのタンパク質含量向上のために出穂後に行う。  
可能な限り子実のタンパク質含量が上がりやすい(1)ミスト散布を行うが、作業上難しい場合はより省力的な(2)葉面散布を行う。  
(1)ミスト散布：硫安もしくは尿素を出穂後 0 ~ 10 日に N 成分：6kg/10a を施用する。  
(2)葉面散布：尿素 6 % (6kg/水 100L、N 成分：2.8kg/10a) を赤かび病防除薬剤に混用し同時散布する。葉面散布はミスト散布に比べ、タンパク質含量がやや向上しにくい(特に多収年)ため、散布回数は 2 回とする。
- ⑤ビール麦は、窒素の過用および追肥時期の遅れが品質低下を招くので注意する。
- ⑥石灰質資材により土壌 pH を矯正する。稲麦大豆体系における適正 pH は 6.0 ~ 6.5 である。